

受験番号		氏名	
------	--	----	--

※ 答えはすべて解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

問題一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。（満点24点）

新之介、晴天の霹靂、ゆめぴりか……。近所のスーパーの棚に各地から新米が届く季節になった。今年には北海道や東北が豊作だと聞いた。

単位面積あたり<sup>1</sup>シユウカクが全国一と報じられていた山形県を訪ねた。県南部の高島町の大規模農家は、意外にも浮かない表情だった。「実は今年、<sup>A</sup>会社創設以来の危機です」。株式会社「ファームおそのづか」を経営する山口敏博さん（62）は話す。

悩みの種は、コロナの影響で米価が一割下落したことだ。飲食店が閉まって消費量が減り、業者の倉庫には在庫が山と積み上がっているという。「二年連続の値下がりに加え、今後も見通せない。離農も増え<sup>B</sup>そうです」。

ファーム周辺ではここ十年で<sup>2</sup>カソが深刻化し、高齢農家の引退も一挙に進んだ。生まれ育った地域を荒廃させまいと、山口さんは耕し手のいない農地を引き受けてきた。後継者にと地元の若者を雇った。今後、空き家を改修し、地区の外からも人材を呼び込むつもりだ。

稲作の歴史は日本の歴史と重なる。長らく税（年貢）であり、<sup>3</sup>カヘイであり、財政指標でもあった。<sup>4</sup>高騰すれば各地に騒動が起きた時期もある。ところが、この六十年の間に国内での消費量はほぼ半減してしまふ。十年前には家庭での購入額で、<sup>1</sup>ついに<sup>1</sup>に抜かれた。「糖質制限」ブームもあって、コメ離れは止まりそうにない。

山口さんが手塩<sup>C</sup>にかけた「つや姫」を味わった。新米ならではの甘みを<sup>5</sup>堪能しつつ、百年後の瑞穂の国<sup>D</sup>ありように思いをはせた。

（天声人語 二〇二二年一〇月二日）

問一 傍線部1～5のカタカナを漢字に直し、漢字にはフリガナを付けなさい。（1点×5）

問二 傍線部A「会社創設以来の危機」について

(1)「危機」とは「( ) A ( )の( ) B ( )」と言つことができる。( ) A ( ) B ( )に入るべき二字の適語を、本文中から書き抜きなさい。（2点×2）

(2)「危機」の原因は何か。本文中から二点、それぞれ五字程度で答えなさい。（3点×2）

問三 傍線部B「離農も増えそうです」とあるが、山口さんがその対策として、行う予定は何か、簡潔にまとめなさい。（3点）

問四 ①に入る適語を入れなさい。（2点）

問五 傍線部C・Dの意味を次から選び、記号で答えなさい。(2点×2)

- ア 研究して育てた                   イ 苦勞して育てた                   ウ 悩んで育てた  
エ 強く抱いた                       オ 遠くまでいかせた                   カ 強く確認した

問題二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(満点26点)

「後で後悔する」「食事を食べる」「被害を被る<sup>1</sup>」「犯罪を犯す」「違和感を感じる」といった表現は、同じ漢字が二度使われていることからわかるが、意味の重複がある。これら重言(じゅうごん・じゅうげん)は避けた方がよいとはいえず、話し言葉ではさほど気にせず、また気づかずに、使ってしまうものでもある。

右の五つの表現のうち、「A」を除き<sup>2</sup>、同一の漢字でも読み方が異なる。そのため、耳で聞いた口に出したりする際に、同じ意味のことを繰り返しているという意識が薄れる。文字にするときには、少し意識して、「後悔する」「食事をする」「被害にアウ<sup>3</sup>」「罪を犯す」「違和感がある」のように書く人が多いのではないだろうか。

同じ漢字や単語が繰り返されなくても重複表現になることはある。たとえ重言であっても、もはや誤用とは見なされないものもある。また、誤用ではあるが許容されているもの、明らかに誤用で避けるべきものなど、さまざまだ。

「新しいニュース」という言い方は、語源を考えれば重言になるが、「知らせ・事件・報道」を意味する日本語の「ニュース」に、「B」という意味はフク<sup>4</sup>まれない。だから「そのニュースはもうC」などとと言えるのである。

「元旦の朝」というのも、「元旦」がすなわち「D」の朝「の朝」なのだから重言だが、許容されているようだ。それに対して「元旦の夜」のように、単なる意味の重なりを乗り越してムジュン<sup>5</sup>が生じると、誤用と見なされる。

- ① 「見事グランプリ大賞に輝きました」  
② 「新年明けましておめでとうございます」  
③ 「炎天下の中で試合をして体力を消耗した」

これらの重言を「E」の部類と見なして許容するか、それとも「F」と同じで避けるべき表現であると考えerかは、意見が分かれるところであろう。

(野口恵子 『失礼な敬語』)

問一 傍線部1～5のカタカナを漢字に直し、漢字にはフリガナを付けなさい。(1点×5)

問二 傍線部A「これら重言く使ってしまう」とあるが、なぜ話し言葉ではさほど気にせず使ってしまうのか。解答用紙の枠に入るよう四十字以内で説明しなさい。(3点)

問三 A F に入るにふさわしい語句を答えなさい。(2点×6)

問四 ①～③のそれぞれの文を、重複を避けた文に直しなさい。(2点×3)